

衆議院外務委員会ニュース

平成 25.5.22 第 183 回国会第 8 号

5 月 22 日（水）、第 8 回の委員会が開かれました。

1 国際情勢に関する件

- ・岸田外務大臣、あべ外務大臣政務官及び政府参考人並びに参考人に対し質疑を行いました。
(参考人) 独立行政法人国際協力機構理事長 田 中 明 彦 君

(質疑者及び主な質疑内容)

島 田 佳 和君 (自民)

- ・外務省の青少年交流事業である JENESYS 2.0 や KAKEHASHI Project の目的と意義について伺いたい。
- ・政府は、近年、海外に留学する日本人が減少している現状をどのように分析し、今後どのようにして増やしていくつもりなのか。
- ・我が国の人材育成の観点から、日本の大学の質を高めるとともに、カタールのドーハにあるエデュケーション・シティのように、自国で欧米の質の高い教育を受けられる仕組みを検討すべきと考えるが、岸田外務大臣の所見を伺いたい。

玄 葉 光一郎君 (民主)

- ・日露首脳会談におけるプーチン大統領の発言が外に漏れ、報道されたことは好ましくないと考えるが、これについて岸田外務大臣はどのように考えているのか。
- ・飯島内閣官房参与の訪朝について、事前に米国へ通知しておくべきではなかったのか。
- ・岸田外務大臣としては、歴史認識について村山談話をそのまま引き継ぐのか。

阪 口 直 人君 (維新)

- ・我が国の原発事故が収束しきれていない中で、トルコと原子力協定に署名したことについて、政府にその正当性を確認したい。
- ・トルコの原発建設予定地であるシノップ市について、現地住民にトルコ政府がどのような説明を行っているか確認する必要があるのではないか。
- ・援助のスキームが不在であるという理由からシリア難民の支援が行えないという問題に対して、岸田外務大臣の見解を伺いたい。

山 内 康 一君 (みんな)

- ・「水と衛生に関する拡大パートナーシップ」に我が国が正式メンバーとして参加する必要性についての外務省内での検討状況はどうなっているのか。
- ・低所得国における井戸の整備をはじめとする水に関する援助について我が国としてより積極的に取り組むべきと考えるがどうか。
- ・職員の語学研修に関する外務省の戦略と研修語学別職員数の現状についての岸田外務大臣の所感を伺いたい。

笠 井 亮君 (共産)

- ・「歴代の内閣の立場を引き継ぐ」との安倍内閣の歴史認識に関し村山談話中の「国策を誤り」「植民地支配と侵略」を行ったという部分も含め引き継ぐということか伺いたい。
- ・韓国政府がいわゆる従軍慰安婦の賠償請求権問題に関して日韓請求権協定（1965年）に基づき両国政府間の協議を提起した経緯と協議の状況について伺いたい。
- ・いわゆる従軍慰安婦の賠償請求権に関する日韓間の解釈に違いがある以上、日本は日韓請求権協定第 3 条に基づき協議に応じる義務があるのではないか。

玉 城 デニー君 (生活)

- ・日台民間漁業取り決め発効後、日本側排他的経済水域での台湾側漁船の拿捕が相次いでいるため、台湾側の漁民に対する本取り決めの周知徹底を図るよう我が国として求めていくべきではないか。
- ・米軍嘉手納基地での航空機の運用が同基地における航空機騒音規制措置（平成 8 年 3 月 28 日 日米合同委員会）に違反しているのではないか。
- ・米軍嘉手納基地から発生する夜間・早朝の騒音被害が昨年 1 年間で 4000 回を超えている現状についての岸田外務大臣の見解を伺いたい。

岡 本 三 成 君 (公 明)

- ・ 就任1年を振り返っての田中独立行政法人国際協力機構（以下「JICA」という。）理事長の感想と今後の抱負について伺いたい。
- ・ JICAによる人的支援を我が国外交の重要な柱に据えるべきと考えるが岸田外務大臣と田中JICA理事長の見解を伺いたい。
- ・ 我が国中小企業が有する優れた技術の海外への輸出を支援する上で省庁間の垣根を越え連携して取り組んでいく必要性についての岸田外務大臣の見解を伺いたい。